

●私ども社会心理学班の“牽引者”佐野勝男先生が、この3月31日をもって慶應義塾を定年退職された。もっとも、先生は昭和56年より義塾の常任理事(現在2期目)を務められており、常任理事職には“定年”はないので、来年5月の任期満了まで慶應義塾におられるわけだが、この『組織行動研究』第1号(昭和52年9月刊)所載の先生による「発刊にあたって」などを讀むと、多少の感慨なきにしもあらず、というところである。先生ご自身はいかがであろうか(公務多忙でそのような私的感慨に浸っている暇いとまなどあらず、ということであろうか。)

●先生は横浜市日吉の住人である。慶應義塾の常任理事ともなれば、黒塗りの車が自宅まで送迎に……と思うのが大方であろうが、事實はさにあらず。ちなみに先生の場合は、東横線で日吉から自由ヶ丘まで、そこで大井町線に乗り換え大井町まで、大井町から京浜東北線でJ R田町までというルートで通勤されておられる。

昨年の11月のひどいどしゃ降りの日であった。珍しく一緒に飲む機会があった。渋谷でであった。「心理学ってのは世の中のアブクみたいなものばっかしいじくりまわしているところがあってパッとしないねえ。もっと本質的な問題に大胆に切り込んでいかなきゃあ」という調子で大分メートルが

あがり、舌鋒こそ鋭どくあったが、足もとの方は大いに心もとなくなっておられた。夜も更けて、「こりゃあ日吉駅まで“添乗”したほうが無難だろうなあ」と気をまわし、東横線へと一緒に乗り込んだ。(ちなみに、私の住まいは新玉川線沿線にある。)先生は、座席に腰をおろしてうつらうつらされていたが、電車が自由ヶ丘駅に着くやいなやスッと立ちあがられ下車なさろうとする。私はあわてて、先生のレインコートの裾をつかんで「先生、コレッ、東横線ですからッ」。ト、私の顔面に鉄拳が飛んできて「何のつもりだッ、お前はッ。俺はここで乗り換えるんだ」という声とともに先生はホームにひらりと移って、そしてドアがサアッと閉まった。まア、かくのごとく、先生の真骨頂は“定年退職”などみじんもされていない、ということである。

●私ども社会心理学班の多年にわたるプロジェクトのひとつ「管理能力の評価と開発」の研究が、いままでの成果をとりまとめて、槇田 仁により『管理能力開発のためのインバスケケット・ゲーム』として金子書房より刊行された。関連のモノグラフがこの『組織行動研究』に所載されたのが昭和52年(第2号)であるから、一応のまとまりを得るまで10年余かかったことになる。これまた感ずるところあり、である。(南 隆男)

慶應義塾大学産業研究所社会心理学班研究モノグラフ

組織行動研究 (第14号)

責任編集 槇田 仁・南 隆男

KEIO STUDIES ON
ORGANIZATIONAL BEHAVIOR AND
HUMAN PERFORMANCE No. 14
JULY 1988

〒108 東京都港区三田2-15-45
発行 慶應義塾大学産業研究所
電話 03-(453)-5640(直通)
<昭和63年7月30日>

〒104 東京都中央区八丁堀3-21-3
印刷 株式会社 国際印刷
電話 03-(553)-2051(代表)
<昭和63年7月23日>